

日本舞踊と新舞踊

若柳流日本舞踊

わか やぎ たか し

自ら輪を求めて

近年、踊りがとても盛んになつて來たと思います。それは、日本舞踊ではなく歌謡曲演歌で踊る新舞踊です。歌謡曲は昔懐かしい曲から現代の曲まで幅広く馴染んでいます。音楽が流れると自然に体が動き出す程です。曲も比較的覚えやすい。一曲は大体三、四分と短く、踊りやすく余興として踊るのに手頃で重宝なのです。この三、四分を毎日続けると体操代わりとなり、身体によい運動量と言われています。見る方も踊る方も肩

凝らず気軽に楽しめます。若い方より中高年者に人気があり、今では社会的要素にすんなり受け入れられ、輪が広がり大変賑々しくなっています。

日本舞踊で環を醸し出す

伝統芸能の一つの日本舞踊は、永い歴史があります。短時間で覚える事は大変であり、普段聞きなれない三味線、琴、鼓など邦楽の音色に馴染んでいないばかりか曲も長く、音に合わせた間の取り方などのむつかしさがあります。腰を



人と人の繋がりから和が

日本舞踊と新舞踊には相通じるものがあります。立ち振舞い、所作。ご挨拶に始まりご挨拶に終わる。これはお稽古事以外にも通じる事です。初めて来られる方やお子様にはお約束の時間に必ず玄関の上がり口で坐つて待ち迎えます。入つて来られてから帰る時のご挨拶。お稽古の前後と先に来ている人がいた場合の

気持ちよいご挨拶は、人の心を穏やかにし良い笑顔となります。そこには自然と和が広がり、心の安らぎを与えてくれます。この穏やかな安らぎが平和への第一歩と思つております。お互いの心が通じる大きさを、踊りを通して輪・環・和に広げていきます。

(本名沼田久代、
金沢市畠田東二丁目住)

事務局日誌 (07)

10 · 20 10 · 18 10 · 4 9 · 15 9 · 7 8 · 30 8 · 11 8 · 1 7 · 14 7 · 14 6 · 29 6 · 29
世界連邦石川発足50周年記念にA4クリアファイルを一千部作成
世界連邦宣言自治体全国議会の平成19年度総会がホーテル日航金沢で開催
事務局会議(石浦神社)
「世界連邦石川」第37号発行
第2回県連理事会(金沢工クセルホテル東急)
審査会(石浦神社)
163m)の途中、サマ村(3500m)で撮影。学校は民家のような建物で、薄暗い2階の教室で学習していました。

ネパールのサマ村で勉強に励む子どもたち

写真家 吉田淑子(金沢市)

世界第8位マナスル(標高163m)の途中、サマ村(3500m)で撮影。学校は民家のような建物で、薄暗い2階の教室で学習していました。

神迎水のごとくに空いちまい
はればれと大学の空紺連雀
紺連雀渡りて地にはまんじゅさげ
ゆつくりと朝日がのぼる文化の日
天窓や雁の来るころ待たれしよ
安らぎの栗むく手許見てゐたり
朴落葉もう誰も来ぬ水飲場

俳句 紺連雀
中山純子
(万象・風港顧問=金沢市)



写真は若柳幸志郎舞踊の会で大阪清元「卯の花」を舞う筆者=大阪清国立文楽劇場で平成14年3月

10 · 20 10 · 18 10 · 4 9 · 15 9 · 7 8 · 30 8 · 11 8 · 1 7 · 14 7 · 14 6 · 29 6 · 29
世界連邦石川発足50周年記念にA4クリアファイルを一千部作成
世界連邦宣言自治体全国議会の平成19年度総会がホーテル日航金沢で開催
事務局会議(石浦神社)
「世界連邦石川」第37号発行
第2回県連理事会(金沢工クセルホテル東急)
審査会(石浦神社)
163m)の途中、サマ村(3500m)で撮影。学校は民家のような建物で、薄暗い2階の教室で学習していました。

編集後記

今号は世界連邦石川50周年記念号としました。記念シンボジウムが開かれたため紙面は輻輳し、入りきらないものが多々ありました。感謝状が贈られた労者六人から一言ずつを頂き、高木旭本部国際委員長には講演要旨に目を通して貰いました。日本舞踊の若柳貴紫さん、俳人の中山純子さん、ネパールの山々を根気よく登っている写真家の吉田淑子さんからも快く清々しい作品を寄せて頂きました。(S)

ご挨拶。お稽古前、和服の着付け、お稽古後は和服についての説明と畠み方などの作法と、これらは人間形成の中の一つとして重要な事と思いま